

試験結果 (完了)

① 除伐省力化試験

奥南川山試験地では、除伐 6 年後の胸高直径の成長率は無除伐区が 142%、除伐区は 179%と 37%の差で除伐区が良好でした。また、樹高の成長率は無除伐区 144%、除伐区 152%と 8%程度の差でした。

除伐が与える影響は肥大成長が大きいのと思われます(図 1)。

試験設定時の植栽木と広葉樹の樹高を比較すると、樹高差は 0.76m～1.18m 程度と、若干競合状態にあったが、現在は 2.44m～4.39m と大きな差となり、無除伐であってもヒノキの成長が広葉樹の成長を上回り、競合状態から脱しています(図 2)。

しかし、野川山試験地では、逆の結果となりました(図 3)。

このことは奥南川山試験地が標高約 1,000m と高く、広葉樹のほとんどが高木性落葉樹に対し、野川山試験地は標高が約 350m と比較的低地であり、広葉樹は高木性の常緑樹が多い照葉樹林帯であることなど、広葉樹の種類・標高・気温等の因子の違いにより、結果が違ってきていると推測されます。

② 下刈・除伐省力化試験 (継続中)

平成 21 年度にプロット設置した松葉川山・桐ノサコ山試験地では 3 回刈区で 25 年度に 2 回目の刈払いを実施し、刈払い後の対照区との成長比較調査を予定しています。

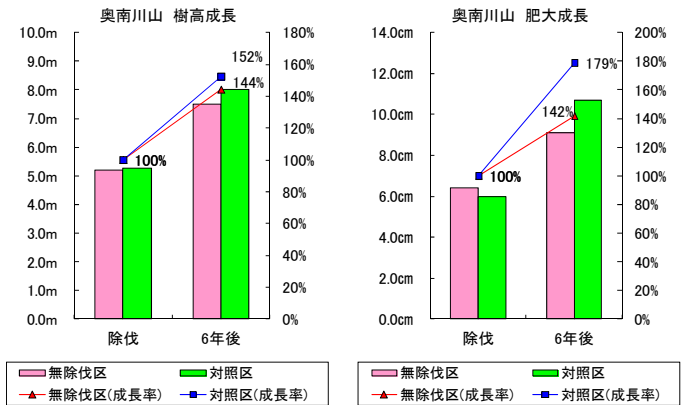


図 1 樹高成長と肥大成長の比較 奥南川

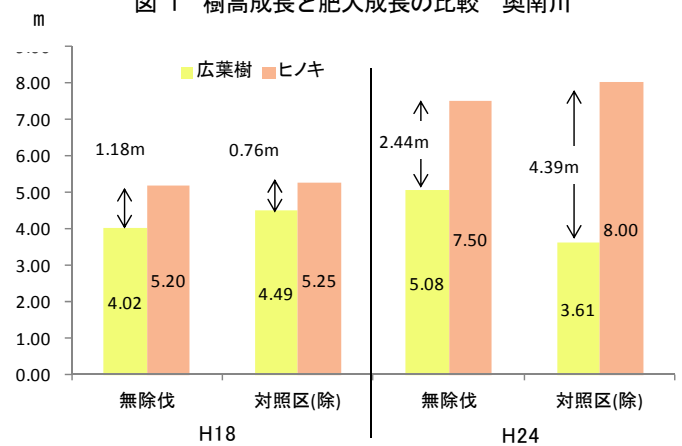


図 2 H18 と H24 年度の広葉樹・ヒノキの平均樹高 奥南川

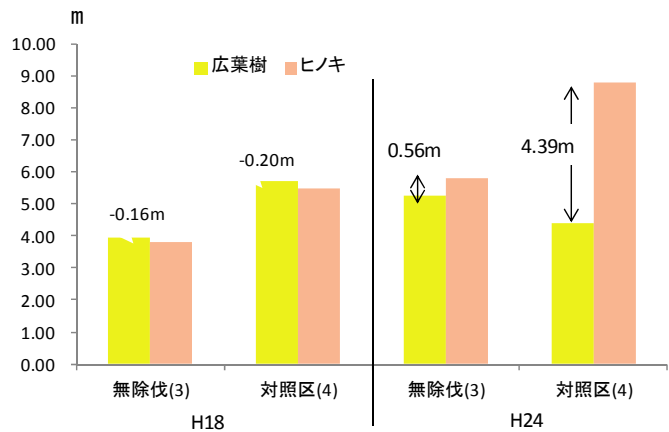


図 3 H18 と H24 年度の広葉樹・ヒノキの平均樹高 野川

今後の予定等

除伐作業の省力化試験については、除伐が植栽木の成長に与える影響について一定のデータ収集できたことから経過観察とします

下刈・除伐省力化試験については、H25 年度に 3 回刈区の下刈を実施する予定です。なお、松葉川山試験地についてはシカによる食害が著しいため、観点を変えた調査を検討することとします。